

外 国 語

英 語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

・大学入学共通テストの概要

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており、平成2年より実施された「大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）」に代わって、令和3年より実施された。

今年度の受験者数は（共通テスト(2)）、1,693名で、平均点は56.68点であった。

・科目の特徴

センター試験の「英語（筆記）」と異なり、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）にあるように、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としている。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は出題されていない。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況となっている。問題文についても、英語で表記されている。配点も200点から100点へと変更された。

・評価の視点

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、CEFRレベルにふさわしいテキストと設問が設定されており、A1からB1レベルに相当する問題となっている。

センター試験の問題に比べて、単語数が1000語以上増加している一方、英文自体の難易度は、昨年度と同等と思われる。受験者は、時には複数の表等から、情報を読み取る力が要求されている。また、学習指導要領に、「情報や考えなどを理解」という項目があるが、factとopinionを識別する問いも複数ある。グラフや表は多すぎず、適切な量であると思われる。

文書の形式や場面、分野は様々で、メモを作る、スライドを作成する等、授業で行った活動も生きてくるようになっている。共通テスト(1)と(2)の難易度等の相違は最小限であったと評価できる。

2 内 容・範 囲

第1問A キャンプに誘った友人からの、持ち物などに関する質問に対して返信するという、スマートフォンでのやりとりを扱った問題である。問2は、やりとりに続いてどのような行動をとったのかという推測力を問う問題である。

第1問B スピーチコンテストの参加者募集の広告を見て、参加の手続き等に関する必要な情報を、簡単な計算を含み、正確に読み取る力を問う問題である。学校生活において起こり得る状況を扱っている。

第2問A 使い捨てボトルと再利用可能なボトルについての調査結果が3種類の図表のみで示され、英文を伴わない設問となっている。事実と意見を区別する設問、推測する設問等、思考力・

判断力・表現力等を問う問題である。

第2問B 英国のサマープログラムの講座案内とコースについてのレビューが問題として設定されている。レビューの内容は易しく理解しやすいが、反面現実味に欠ける。事実と意見を区別する設問があり、日々の授業において、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることを意識して言語活動を行う必要がある。

第3問A 友人の遊園地での体験についてのブログを読むという場面設定は受験者にとって身近である。本文と案内図から位置情報を正確に読み取る必要があるが、共通テスト(1)の問題のように、図表と英文の両方から内容を読み取り、かつ計算も必要であるような内容ではない。

第3問B ロック・ミュージシャンの音楽活動歴が題材である。教科書においても、人物に関する題材はよく含まれるため、日々の授業との関連性があり評価できる。共通テスト(1)と同様に時系列に並べる設問があり、選択肢の表現を的確に理解するのに難しい点があった。日々の授業においても、時系列を整理しながら英文を読み進める力をつける工夫が必要となる。

第4問 研究発表の準備に関連して、生徒3人がやりとりしたメールや資料についての設問である。本文には、正解の選択肢の内容が必ずしも明記されておらず、グラフや2通のメール全てに目を通して必要な情報を読み取る必要があるため、全体を把握するのがやや難しかったと言える。メールの内容から表にしたものにあらたに適切な国名を入れたり、共通テスト(1)にはなかった正しい選択肢の組合せを選ぶという設問も登場した。

第5問 もしある人物にインタビューが可能なら、というテーマで生徒が一人取り上げる人を考えて発表をするという設定。死後作品が見つかり有名になった写真家についての記述を読み、プレゼンテーションの原稿をまとめる形で、受験者の理解度を測る設問。話の展開を理解し、要約できるか、また全体の内容を理解できているかを問う。中でも、問5については、明確に示すような文自体はなく、全体を理解してないと選ぶことができない問題。指導する側から見ると、思考力・判断力・表現力等を高めるための授業実践の必要性を感じる設問で、高い評価に値する。語彙も適切。

第6問A アメリカ留学中の受験者が学校の演劇部に入部していて、イギリスのRoyal Shakespeare Companyの最近の変化についてのアメリカのオンライン文学雑誌記事を読むという設定。あらゆる社会的背景を持つ多様な人々を演じる側、スタッフ両方に登用するという方針について取り上げる内容。語彙も知っておくべきものが多く、内容は受験者が読む価値がある題材である。設問は要約を読み、最後の空欄に適切な文を入れるもの、さらには受験者自身がこの内容に賛成だとしたら、自分の演劇部ではどうするかを考えさせる発展的な設問が続く。受験者が読むだけでなく、要約やさらにその後どうするかを考えさせる設問は思考力等を要するもので、日頃授業展開に影響を与える可能性が高く、評価したい。

第6問B 口腔衛生についてのポスター発表をするという状況で、ポスター作りの材料としての文章を読み、ポスターを完成するという設定。日常誰もが関係するトピックであり、その重要性の説明とともに、研究結果を基にした分析と複数の国の啓発活動についても説明する文章。適切な語彙を用いて6つの段落ごとの内容がよくまとまっており、ポスター作りの参考に読むものとしては適切。設問には、省くべきものは何かを考えさせるものや、グラフを扱うものがある。特にグラフの問題はやや4つのグラフが見にくいところがあるが、正確に読むことができれば、答えを見つけるのは難しくない。表、グラフを読む力も、社会に出てから役に立つスキルであるため、この設問は高く評価できる。

3 分量・程度

- 第1問A 約140語で2つの設問を設け、必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量である。実生活でのSNSでの実際のやりとりに比べると、テキストメッセージとしては長いですが、問題として適当である。日常生活に関連した基本的な問題であり難易度はやや易しめである。
- 第1問B 約230語で3つの設問を設け、資料とその説明文から必要な情報を読み取る力を問うのに適切な分量である。スピーチコンテストのチラシを読み取る問題で、情報量として適切である。最下部に書かれている注意事項もチェックしないと正解にたどり着かないが、難易度は標準的である。
- 第2問A 約200語で5つの設問を設けているが、本文に当たる英文はない。3つのアンケート結果からそれぞれ必要な情報を読み取る力を問う問題と、opinion, factを選ぶ問題は、区別ができれば正解にたどり着ける。資料の読み取り問題としては標準的な難易度と言える。
- 第2問B 約200語で書かれた情報とレビューから読み取る問題で設問は5問。情報量としては適切である。前問同様、fact, opinionを選ぶ問題が出題されており、他の設問より難易度が高くなっている。全体的には標準的な難易度である。
- 第3問A 約250語で書かれたアミューズメントパークに関するブログを読み取る問題で、設問は2問。設問数を考えると、英文の量が若干多く感じられるが、平易な英文で書かれており、パークの地図が付いているので、英文量は適切であり、難易度も標準的である。
- 第3問B 約300語で書かれたロック・ミュージシャンの音楽活動歴に関する問題で、設問は3問。問1の時系列に並べる問題は難易度が高かったが、全体的には標準的な問題である。
- 第4問 クラスメイトに送ったグラフ、表と、それに対する合計約430語のEメール2通を読み、発表用の概要原稿にまとめる問題。設問は5問。問4のグラフから読み取る問題と、問5の適切な組合せを選ぶ問題の難易度はやや高くなっているが、全体的には標準的な問題である。
- 第5問 約600語で書かれた実在の女性写真家の伝記を読み、発表用のメモにまとめる問題で、設問は5問。英文の量としては、長めではあるが、適切な範囲である。問3の時系列の問題は難易度が高く、また、第4問も若干高くなっているが、全体的には適切である。
- 第6問A 約500語で書かれたRoyal Shakespeare Companyの新しい取り組みに関する説明文を読んで答える問題が4問。適切な量である。問3に要約文の穴埋め問題があり、この問題の難易度は高くなっている。全体的には標準的な難易度である。
- 第6問B 約670語で書かれた口腔衛生に関する説明文を読んで、ポスターにまとめる問題。設問は4問。語数は本試験で最も多くなっている。問3の難易度が高いのは、英文自体はさほど難しくはないが、量が多いことと、かなり丁寧に読まなければ解答できないことが原因と思われる。しかし、設問自体は標準的である。

4 表現・形式

- 第1問A 日常生活に関連した英語素材を通して基本的な読解力を問う問題。スマートフォンでのテキストメッセージという、受験者の日常生活に近い場面設定で、画面上にテキストメッセージを示し、イメージしやすい。問題、設問の長さ、レベルから配点は適切である。共通テスト(1)の問題のように、適切な返信を考えさせる問題があった方が良いかもしれない。会話体でのテキストメッセージであり、平坦で理解しやすい表現である。実際のやり取りを考えると、メッセージを短くして、もう1往復あっても良いと考えられる。携帯（スマートフォン）の画面がイメージしやすい効果をもたらしている。

第1問B スピーチコンテストのチラシを見て、応募や結果発表の日時、審査のポイントを読み取る問題。受験者にとって身近な場面設定であり、必要な情報を読み取ることが要求されている。チラシ中の説明文と表という2種類の材料から情報を読み取らせる設定である。じっくり英文を読むのではなく、スキミングの力が問われる。最後の注意事項にも必要な情報が書かれていることに注目する必要がある。問題、設問の長さ、レベルから配点は適切である。

第2問A 飲料のボトルについて、使い捨て（ペットボトル等）と再利用可能ボトル（マイボトル）についてのアンケート3問と結果のみ書かれており、説明文はない形式の問題である。受験者にとって身近なトピックであり、情報の読み取りに加え、環境問題を考えさせる問題となっている。事実と考えを区別する2問は、区別できれば正解できる。問題量、レベルから配点は適切である。英国でのアンケートであり、イギリス英語が使用されている。文章はなく情報量は適切である。設問数とのバランスは適切である。

第2問B 英国でのサマープログラムの情報とレビューを読んで、講座の内容等を読み取る問題。講座の内容、対象、修了の条件等を読み取る問題に加え、事実と考えを区別する問題が2題出題されている。区別ができれば正解できるが、難易度は他の問題より高くなっている。設問の設定は適切であり、問題、設問の長さ、レベルから配点は適切である一方、実際の状況を考えてみると、複数のレビューがある方が自然ではないか。イギリス英語の使用があり、多様性を示す材料となっている。

第3問A テーマパークについてのブログとパークの地図を見ながら、行動ルートを正確に捉える問題。地図をたどりながら、記事を読めば、容易に解答できる。“a lovely view over the lake”の位置関係が読み取れなかったためか、正答率が若干低くなっている。英文の量、設問数は少なく、レベルも適切であるため、短時間で読み取れるかどうかの問題であろう。

第3問B ロック・ミュージシャンの音楽活動歴に関する英文を読み、答える問題。時系列に並べる問題の難易度が高くなっている。バンドで、ギター、ドラム、ボーカル、ソロと担当パートが変わっていったところに注目して読めば、難しくはないはずだが、最終的にソロシンガーとなったことが、最初の段落に書かれているため、読み間違えた受験者がいたのではないかと思われる。イギリス英語のスプリングが含まれているが、解答することに影響はない。英文の量、設問数、レベルは適切である。

第4問 「あなた」が送った統計資料と、一緒にプレゼンテーションを行う生徒からのメールを読み取る問題。3人が同じプレゼンテーショングループであるという状況設定は最初に示しておいてもよいのではないか。発表概要原稿にまとめることが中心となっており、タイトルやトピック等、学校での授業でこのような作業に慣れているかどうかで、取り組みやすさに差が出るだろう。問4の国名を選ぶ問題では、メールの中に直接書かれていない国名を、グラフと表から読み取り解答するため、難易度は高くなっている。問5の組合せで解答する問題は特に良問である。英文の量、設問数、レベルは適切である。

第5問 「もし生きていたらインタビューしてみたい人物」についての発表をするため、実在の女性写真家の伝記を読み、発表用のメモにまとめるという問題。授業の中でも取り上げるような活動である。問3の時系列に並べる問題は難易度が高くなっているが、因果関係を把握しながら読めば、決して難しい問題ではない。問5の問題は、全体のまとめとしてとても良い問題だが、受験者は消去法で正解にたどり着くかもしれない。英文は長めであり、メモも読まなければならないことを考えると、多少難しく感じられるが、選択肢は分かりやすく、解答しやすい。デジタルカメラが全盛なため、受験者はネガになじみがないかもしれないが、うまくイラストを使い説明されている。

第6問A アメリカのオンライン雑誌の記事からの出題。日本でも定期的に公演が行われているRoyal Shakespeare Companyの記事である。シェークスピアについて知らない生徒にとっては取り組みにくい問題かもしれないが、大きな有利・不利はないだろう。内容的にも、シェークスピアの戯曲ではなく、劇団としての新しい取り組みが中心なので、問題はない。ただ、The Taming of the Shrew（じゃじゃ馬ならし）の娘を息子に置き換えて、という部分はピンと来なかった受験者が多かったかもしれない。disability, impairedに関して、知らない単語だった生徒もいると思われるが、読めば理解できるように書かれている。問3の要約の最終文を選ぶ問題は、新形式の問題で難易度は高いが、とても良い問題であろう。問4のRSCのアイデアを基に自分たちの演劇部の取り組みを考えさせる問題も良問である。英文の長さ、設問数、レベルは適切である。

第6問B 口腔衛生に関する説明文を読んで、ポスター発表の準備をするという問題で、保健と関連がある内容であり、日常生活において知っておくべき知識であること、また教科横断型の指導のきっかけにもなる内容であることから、適切な場面設定であると評価する。問3のグラフを選ぶ問題では、グラフの違いが微妙であることと、該当部分をじっくり読んでグラフを分析しないと「1993年の例外はあるが」の意味が分からなかったと考えられる。英文は長めだが、設問は難しくはなくレベルは適切である。

5 ま と め （総括的評価）

共通テストの全科目の中で、「リーディング」は最も多くの受験者が受験する科目であり、また、センター試験から共通テストに替わるに当たり、最も大きく変更された科目であると言えるだろう。あくまで大学教育を受けるのに必要とされる基礎力と高等学校段階における英語学習の達成度を判定することを狙いとしており、海外留学（TOEFL, IELTS）あるいは国際ビジネス（TOEIC）を念頭に置いた国際標準の試験とは目的が異なるが、CEFRを参考に、CEFRのA1からB1レベルに相当する問題ということが、作成方針に掲げられている。共通テストの問題は試験日の翌日に新聞等で全て公開され、教育関係者のみならず一般国民の目に広く触れることも特徴的である。したがって、本試験は競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開性の下に行われているものと言えよう。本試験の以上のような特性から、試験の内容・形式に関しては、教育の現場に及ぼす影響を十分に考慮し慎重な配慮が必要である。

これまでのセンター試験との違いは、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題がなくなり、全てが英語の設問による現実で目にするだろう情報に近い形での文章と問題設定である。様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問う問題となっており、総語数は、センター試験と比較し25%以上増えている。授業内での活動を意識した設定で、プレゼンテーション、スライド作成、ポスター発表、問題解決など、ただ単に読んで内容を理解するだけにとどまらず、発展的に情報を発信したり、誰かに情報を伝えたり、表現するといった様々な設定の下に設問が作られている。答えは本文に直接的には書かれておらず、内容全体を理解して、思考しないと解答できない問題、事実か意見を整理する問題、また読んだ上でその後どうするか、という将来の行動について考えさせる問題もあった。より現実に近い設定を与えることで、読む技能を試すだけでなく、発展的に思考して判断する力を問うものであった点は大きな変化である。日々の授業において、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることを意識して言語活動を行う必要がある。また、ポスターの作り方、プレゼンテーションの仕方、スライドの構成など、実際に社会に出た時にも役に立つ内容を授業でも行うことで、授業での活動の幅が広がることが期待される。なお、時代に合った内容を取り入れることで、社会の問題や変化に対応していく

必要性を感じる設問があり、大いに評価に値する。多様な人々の存在する現在の社会において、他を尊重し協働的に活動することが明示される内容の出題により、今後授業で取り扱う内容に大きく影響を与えると考えられる。

全体において、新学習指導要領を見据えた新しい方向性を示すテストとなった。引き続き、積極的に英語を使う態度を養い、情報や考えを適切に理解した上で伝える能力を高めるための英語教育が行うことができるよう、現実に近い言語使用の状況設定と変化の激しい現在の世界と社会について考えるきっかけとなる内容での問題作成を要望する。

出題内容と設問数、配点一覧（*は、全部正解の場合のみ点を与える。）

出題内容				設問数		配点			難易度
大問	中問	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点		
第1問	A	1-2	意図の読み取り	2	5	2	4	10	☆
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6		☆
第2問	A	6-10	要点の把握	5	10	2	10	20	☆☆
	B	11-15	情報の整理	5		2	10		☆☆
第3問	A	16-17	図表と説明文の理解	2	5	3	6	15	☆
	B	18-21	時系列での内容理解	1		3	3		☆☆
		22-23	内容理解と論理的考察	2		3	6		☆☆
第4問		24-25	図表と説明文の理解	2	6	2	4	16	☆☆
		26-29	内容理解と情報の整理	4		3	12		☆☆
第5問		30	物語の内容把握	2	5	3	6	15	☆☆
		31-36	物語の展開把握	1		3*	3		☆☆☆
		37	物語の要点把握	1		3*	3		☆☆☆
		38	物語の全体理解	1		3	3		☆☆
第6問	A	39-42	内容の論理的考察	4	4	3	12	24	☆☆
	B	43-44	情報の要約	2	2	3	6		☆☆
		45	正確な内容理解	1	1	3*	3		☆☆☆
		46-47	情報の要約	1	1	3	3		☆☆☆
合計					39			100	
平均点								56.68	

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

（代表者 鈴木 真人 会員数 約60,000人）

T E L 03-3267-8583

1 前 文

本稿では、2021年度（令和3年度）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）(2)「英語（リーディング）」問題の検討を行う。

昨年度までの大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「英語（筆記）」問題は共通テスト「英語（リーディング）」問題へ移行し、問題の形式上大きな変更があった。移行に伴い、今回の共通テストでは、従来の発音問題や語順整序等の問題がなくなり英語リーディングの力を測る試験に変わった。コミュニケーション重視の観点から英文の内容や場面設定に改善が進められており、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえた設定となっている。

昨年度と比較して出題された小問の数は減少したものの英語の総語数は1,000語以上を超える増加となった。このため、受験者にとってはこれまで以上に速読力が求められ、試行調査（プレテスト）にはなかった新傾向の問題も登場し、最後まで解き終えることができなかった学生が増加したことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスや効果測定の観点、特に思考力を測定する観点からするとこれ以上語数を増やすことは有効ではないと考える。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で注意力や解答方法への慣れを測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。共通テスト(1)では中間集計の結果、平均点が100点満点中ほぼ60点であったが、共通テスト(2)では51.4点となり、点数の上で大きな差が生まれた。この差は何を意味するのか、今後大問と小問ごとの正答率や弁別率、得点分布など更に詳しい分析結果が待たれるところである。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第1問 情報とその意図の読み取りに関する設問である。問題数は5問で、10点の配点となった。

日常生活に関連した身近なものから自分が必要とする情報を読み取り、その情報を基に解答を推測する力が求められる問題である。

A スマートフォンのメッセージのやり取りを通して、画面上のメッセージの内容について問う問題が2問となり、共通テスト(1)の問題にあったメッセージに続く応答を推測させる問題がなくなった。共通テスト(1)にあったこの問題は過去のリスニングの問題で短い対話に続く適切な応答を選択させる問題に類似しており、短い英文のやり取りから必要な情報を読み取り、適切な応答メッセージを返信する設定であり、思考力を測定する問題として優れた問題である。共通テスト(2)の問題にも採用すべきであったと判断する。

B ウェブサイトにある案内文から必要な情報を読み取り解答する問題で、昨年まで実施されていたセンター試験の第4問Bに類似している。過去の問題は、設問が先に設定されていたので、実際の場面からすれば、やや違和感があると捉えられたこともあったが、共通テストでは設問が問題文の後に設定された形式に変化してそのようなこともなくなった。過去に出

題されたこの形式の問題には、一見して文字が小さく行間も狭く複雑で分かりにくいものがあったが、その後改善が進み、文字の大きさや行間の幅などが改められ、一目でどこにどのような情報があるのかがすぐに分かるようになり、取り組みやすい問題となった。必要以上に情報を満載して、単に注意力を試すような問題にすることは避けるべきである。

第2問 試行調査問題のねらいとして「友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理することができる。」点が挙げられているが、情報を「事実」と「意見」に整理する問題は新傾向の問題である。今回の問題の選択肢の構成を見ると、例えば、Bの間4は「意見」である①を選ばせる問題であるが、③には「事実」が述べられており、②と④には意見でも事実でもない本文と異なる内容が述べられている。つまり、受験者は事実と意見、そして、さらにその他の情報の3つに整理する必要がある、従来の問題と比較して複雑で時間がかかる問題である点を指摘しておきたい。

A 複数の情報を読み取りその内容から正答を導き出す問題である。この問いでは3つのアンケートの質問に対する回答をまとめたデータを一つずつ正確に読み取り各設問に答えることが要求されており、受験者にとっては細心の注意を必要とする問題である。問いがアンケートの質問ごとに設定されているので受験者にとって取り組みやすい問題であるが、しかし、問3における“one opinion”は何を意味しているのか、判断が難しかったことが予想される。調査結果にある“*It takes too much time to wash reusable bottles.*”とするアンケートの回答はたしかに「意見」であるが、この調査でそのように回答した学生が一番多かったことを考えると「事実」とも捉えられるのではなかろうか。

B 夏の講習の案内と受講者の評価を読み、その内容や「事実」、「意見」に関する問いに答える問題である。この問いにある「事実」や「意見」は何を指しているのか明確であり解く上で問題となるようなことはない。共通テスト(1)の間5はいわゆる思考力を測る問題であったが、共通テスト(2)には同じ趣旨の問いがない点を指摘しておきたい。

第3問 平易な英語で書かれたブログや雑誌の記事を読み、書かれている内容の概要に関する問いに答える問題である。

A 平易な英語であることに間違いはないが、順路を正確にたどる問題もあり受験者にとっては注意力を要する問題である。遊園地の見取り図が分かりやすくまとめられており、出題上の工夫がうかがえる。本文は短い英文なので問いの数も少なく設定されたことは分かるが、わずか2問しかなかったことには残念な印象を受ける。

B 試行調査問題の小問1の概要に「雑誌の記事を読んで、概要（登場人物の気持ちの変化）を把握する。」とあり、「気持ちの変化」に関する問題の選択肢が6つもあったが、今回の試験では本文の記事に出てくる事実を時系列に並べる問いになり、取り組みやすい問題となった。問3は思考力を測る問題であり、今後このような問いが増えることが予想される。

第4問 試行調査問題のねらいには「生徒の読書習慣について書かれた記事の読み取りを通じて、記事やグラフから、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う。」とあり、記事の数は2つで1つの記事にグラフが1つ添付されていた。今回の試験では2つのemailと2つの図表、更にプレゼンテーション用のアウトラインの合計5つの情報や図表が複雑に絡み合う問題となり、受験者にとっては注意力を要する問題となった。実用的な英文を読み、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う問題であることには間違いはないが、情報源が多すぎる印象を受けた。しかし、問いは短く明解であり選択肢も分かりやすいので情報を正確にたどっていけば正解に到達できる問題である。

第5問 試行調査問題のねらいには「ポスタープレゼンテーションのための準備をする場面で、アメリカにおけるジャーナリズムに変革を起こした人物に関する物語の読み取りを通じて、物語の概要を把握する力を問う。」とあり、小問が4つあった。今回の試験では、プレゼンテーションに取り上げるテーマとして、存命中であればインタビューを試みたかある写真家の生涯を中心とした物語の概要を把握するための小問が5つ設定された。試行問題の問2と問4の問題文には、”Choose the best statement(s) to complete the poster. (You may choose more than one option.)”とあり、選択肢が6つもあったが、今回の試験では改善され、選択肢を幾つ選択してもよいという問題がなくなった。受験者にとっては安心して問題を解くことができるようになり、時間を節約することもできたのではないかとと思われる。

第6問 試行調査問題の主に問いたい資質・能力の思考力・判断力・表現力に「身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などを読んで概要や要点を把握したり、情報を整理したりすることができる。また、文章の論理展開を把握したり、要約することができる。」とあり、問題Aでは留学先の学校の演劇部についてその改善策を検討するため、オンライン上にあるロイヤルシアターカンパニーの最近の取り組みに関する記事を読み、その内容について問う問題が出題された。問題Bではいわゆる口腔ケアに関するポスタープレゼンテーションを行う設定で、口内健康に関する記事を読み、その内容について問う問題が出題された。

A 本文中に語彙レベルがやや高い語、例えば、“visually-impaired”や“hearing-impaired”などが見受けられるが、文中の“three actors with disabilities (currently referred to as “differently-abled” actors)”に続く部分であり、文脈上何を意味しているのかが分かるので特に問題となる点はなかった。

B 問題Bにおいても同様に、例えば、“floss”という語については直後に“using a special type of string to remove substances from between teeth”という説明があり、“sealant”については“a plastic gel (sealant) that hardens around the tooth surface and prevents damage”とあるので特に問題となる点はなかった。また、ポスターのイラストの冒頭には共通テスト(1)の問題Aにはなかった“Your presentation poster:”というタイトルがあり、試験問題全体の統一感が生まれ受験者にとっても分かりやすかったのではないかとと思われる。

3 ま と め

本稿では2021年度（令和3年度）共通テスト(2)「英語（リーディング）」問題について検討してきた。前述にもあるとおり、センター試験と比較すると大問構成は6問で変化はなかったが、英語の総語数が大幅に増加し、複数の英文や図表で構成される問題が増え、これまで以上に複雑な問題を解く英語リーディングの問題に大きく変化した。リーディングの問題であるから英文法や作文、発音に関する問題がなくなったことに問題点はないが、共通テストでは英語の4技能のうち主に2つの技能（リーディング、リスニング）を計測することにとどまることになる。新型コロナウイルスの影響を受けて個別試験を実施しない大学では、主に共通テストを利用して可否を判定することになったが、従来のセンター試験であれば、4技能のうち少なくとも3つの技能を測ることができたのではないかとと思われる。緊急事態宣言が出されている中、やむを得ない選択ではあるが、結果として偏った技能測定を余儀なくされたことになるのではなかろうか。

以下は大胆な提案であるが、将来は英語リーディング試験をリーディングとライティングの2つの技能を測定する試験に、英語リスニング試験をリスニングとスピーキングを測定する試験に変更していくことを検討していただきたい。後者のスピーキングテストについては、学校現場でタブレットを利用した試験を毎年実施しており、これまでに特に大きな問題はなかった。AI技術を利用す

れば短期間で採点することも可能であろう。AIを活用した音声採点システムの開発は進んでおり、複数のシステムを組み合わせることで偏りを排した採点が可能となるのではないだろうか。他の3つの技能の測定については、従来の方法に従い問題の構成を変えるだけで可能になる。外部試験の利用は評価基準が複数になり、異なる試験を同一の入学試験に利用することは公平性を担保する上で大きな問題となるが、共通テストで評価を一本化すれば全ての問題が解決されることは間違いないと判断する。

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。
読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

大学入学共通テスト英語におけるイギリス英語の使用について（令和元年8月23日）

現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和3年度大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）については、平成29年度試行調査（プレテスト）及び平成30年度試行調査（プレテスト）の結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、A1レベルについても思考力を意識した問題となるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のような概要や要点を把握することに加えて、推測したり、情報を事実と意見に整理する

問題、第3問のようなイラストや写真などの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のような複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力・判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の六つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間）は10、総解答数47、配点2～3点という構成内容で出題した。本年度の共通テスト(2)の受験者数は1,693人で、全科目中で最も多かった。平均点は共通テスト(1)の58.80(100点満点)とほぼ等しい56.68点(100点満点)であった。標準偏差は21.85で、受験者の得点が広い範囲で分散していた。難易度及び得点状況の観点から今回の試験も適切なレベルであったと言える。また、試験の信頼性、受験者の能力を識別する識別力も非常に高く、全体的にバランスの良い標準的な問題であった。

第1問 Aは、日常生活の中で用いられることが多い、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)での双方向型の英文から、必要とする情報を読み取る問題である。問1では、翌日に行くキャンプについて友人がたずねている内容を読み取って答え、問2では、翌日の朝の友人の行動について、自分が書いたメッセージの内容を友人の視点から読み取ることを求めている。Bは、サマースクールのプログラムについて書かれた平易な英語から、必要とする情報を読み取る問題である。問1では、選択肢が英文中の語から言い換えられており、問2と問3では、英文から読み取った情報を統合することが求められる。いずれの問いも、単に選択肢の英語を英文の中から探すような読みでは正解にたどり着けない問題である。

第2問 Aは、マイボトルの利用に関する調査結果について書かれた平易な英語を読み、表を参考にしながら概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理する問題である。事実と意見に関する問題が各1問、問5で、マイボトルを使わない理由についての自由回答の要約から情報を統合し、もっとも頻度の高い理由を読み取る問題が出題された。Bは、サマースクールのコースについてウェブサイトにかかれた平易な英語を読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理する力が問われた。問3では、授業担当教員について書かれた事実を読み取る問題、問3では授業に対する意見を読み取る問題が出題され、問5では、英文にかかれた評価方法に関する情報から、コースを修了するために求められる条件を推測して答える問題が出題された。A、B共にイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。また、共に十分な識別力を持った問題であった。

第3問 Aは、新しく開園した遊園地を訪れた人のブログ上の平易な英語を読み、遊園地の園内図に関する視覚情報も照らし合わせながら、概要を把握する問題である。ブログにかかれた情報と園内図に示された情報を統合しながら本文を読みこまなければならない。Bは、イギリスのあるミュージシャンについて書かれた音楽雑誌の平易な英文記事を読み、概要や要点を捉える問題である。問1では、そのミュージシャンの生い立ちや経験した出来事の順序を問う、問3では、そのミュージシャンについて記事から学んだ内容についての問が出題されている。A、Bともにイギリス英語を用いている。また、共に得点率は高くはないが、識別力がある問題であった。

第4問 日本を訪れる海外からの観光客の行動分析について、平易な英語で書かれたメールのやりとりとグラフ・表を参考にしながら、概要や要点を捉え、自分が必要とする情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題である。複数の情報を理解し、それらを頭の中で整理し、求められる条件に応じて正解を考えなければならない。第4問の識別力も十分に高かった。

第5問 ある女性写真家の人生についての、平易な英語で書かれた物語を読んで、その概要と展開を把握する問題である。「自分がインタビューしたい歴史上の人物」について口頭によるプレ

ゼンテーションを行うために、物語を読んでメモをまとめるという場面設定である。問3ではその女性写真家の存在と彼女が撮った写真が発見されるまでの過程を時系列に整理する問題が、問5では、今なお人々が抱いているその女性写真家についての「疑問」が何であるかを、物語全体を読んだ上で答える問題が出題された。総じて、識別力も高かった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などの英文を読んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aでは、イギリスのある劇団の取り組みについて書かれたオンラインマガジンの記事を読む中で、文章全体の論理展開を考えたり、概要を把握したりする力が問われた。問3のように記事の要約文を完成させる問題や、問4のように、記事に書かれたアイディアを参考にして、自分が所属する演劇部がこの先どのような取り組みをするかを推測して答える問題は、思考力・判断力・表現力等を特に問われる問いであった。Bでは、口腔衛生(歯の健康)に関する記事の読み取りを通じて、記事の概要・要点や論理展開を把握する力や、要約する力を問う問題が出題された。問4は、英文内容に合うものを2つ選ぶ問題で、深い読みが求められる。第6問の識別力も十分に高かった。

3 出題に対する反響・意見についての見解

各方面からのコメントはおおむね肯定的なものであった。特に高校教員からは、「ただ単に読んで内容を理解するだけにとどまらず、発展的に情報を発信したり、誰かに情報を伝えたり、表現する」内容である。「答えは本文に直接的には書かれておらず、内容全体を理解して、思考しないと解答できない問題」「読んだ上でその後どうするか、という将来の行動について考えさせる問題」「時代に合った内容を取り入れることで、社会の問題や変化に対応していく必要性を感じる設問があり、大いに評価に値する」など評価が高かった。

教育研究団体からは、第1問Bについて「過去に出題されたこの形式の問題には、一見して文字が小さく行間も狭く複雑で分かりにくいものがあったが、その後改善が進み、文字の大きさや行間の幅などが改められ、一目でどこにどのような情報があるのかがすぐに分かるようになり、取り組みやすい問題となった」、第3問Aについて、「遊園地の見取り図が分かりやすくまとめられており、出題上の工夫がうかがえる」、第5問の問2の複数選択問題について、「受験者にとっては安心して問題を解くことができるようになり、時間を節約することもできたのではないと思われる」のように、受験者の自然な読みを阻害しないように意識した出題上の工夫が評価された。また、第3問Bの問3については、「思考力を測る問題であり、今後このような問いが増えることが予想される」、第4問については、「実用的な英文を読み、書き手の意図を把握する力や必要な情報を得る力を問う問題であることには間違いないが、情報源が多すぎる印象を受けた。しかし、問いは短く明解であり選択肢も分かりやすいので情報を正確にたどっていけば正解に到達できる問題である」のように、単に英文に書かれた情報を読み取るだけでなく、読み取った情報と統合して思考する力を問う意図が出題に正しく反映されていることに対し、一定の評価を得られた。

高校教員からは第4問について、「問5の組合せで解答する問題は特に良問である」、第6問Aについて「問3の要約の最終文を選ぶ問題は、新形式の問題で難易度は高いが、とても良い問題であろう」のように、思考力・判断力・表現力等を問う問題に対して高評価を得た。さらに、第6問Bについては、「保健と関連がある内容であり、日常生活において知っておくべき知識であること、また教科横断型の指導のきっかけにもなる内容であることから、適切な場面設定であると評価する」のように、今後の授業への良い意味での波及効果が示唆されている。

前年度までの大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と比べて、英文量が増えた

ことなどから、情報操作能力を測っているのではないかとの指摘に対しては、設計上の違いがあることを記しておきたい。日常生活において、ペーパーバックや新聞、ウェブなどの情報を楽しんで読むとなると、一定のスピードが必要となる。本テストでは、巡航速度（スピード）に乗って英語を理解することを念頭に、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力の測定をしている。

平均点は昨年度のセンター試験の「英語（筆記）」並であり、全体としてはほぼ理想的な結果になった。

4 ま と め

センター試験の「英語（筆記）」と同様、「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。特に、共通テストにおいては、平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを重視した問題作成を行い、センター試験から内容が大きく変わった科目の1つとされている。

内容や構成のみならず、各大問の難易度についても大きく変化した。センター試験では、幅広い熟達度を有する受験者に、ほぼ同一の難易度からなる大問を一律に課していたが、「英語（リーディング）」では、大問ごとにA1からB1まで難易度が設定され、平均点の分布はなだらかに大きく広がり、高い識別力があることも示された。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実場面に即した問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭の中に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。問題作成部会では、そのような理解の下に問題作成に当たったが、教育現場に良い影響をもたらし、また、英語のコミュニケーション能力の育成に役立てることができれば幸いである。